

ヤマザクラ

2012年(平成24年)5月22日(火)発行

会報発刊について 理事長 松崎 和敬

本会は、2001年7月から9月の間、森との共生をテーマに開催された「うつくしま未来博森のネイチャーツアー&森の学校」のいわき版を作ること、30～40年前にはどこにでもあった里山を市民の手によって再生して、その里山において市民が安全に気軽に楽しくつき合うことの出来る仕組みを作ることなどをねらいとして、市民の有志が集って2001年10月3日に発足しました。

2004年6月1日には、NPO法人の認証を受け、その目的を「会員及び森との共生を願う市民に対して、市民の森林づくりならびに森との付き合い方についての調査研究、啓蒙に関する事業を行い、森に親しみながら持続可能な地域づくりに寄与すること」としました。主な活動場所は、21世紀の森公園自然冒険ゾーンをスタートに21世紀の森の四季の森南側山火事跡地、金成公園岩出地区、小川町戸渡地区へと拡大し2005年より湯ノ岳山荘とその周辺に活動拠点をおき、ろうきん森の学校の活動を中心にいろいろな活動を展開してきました。

2011年10月には、設立10周年を迎え、現在11年目の活動に入っております。この間、自然観察コースを市内11ヶ所に約10Km整備するほか、人工林5haの間伐等の森林整備、山火事跡地5haの再生整備、休耕農地の再生整備を行いました。

森林環境教育関係では、いわき自然案内人養成講座の開催、インタープリテーション活動、小中学校の環境教育支援等様々な活動を行ってきました。

活動の結果については、会員の努力によって多くの成果を挙げることが出来たものと思っておりますが、最大の問題は、活動した内容について会員に対して周知することをしてこなかった事でした。

毎月1回、活動予定については連絡しておりますが、その結果がどうなったか、活動に参加したものでなければその内容が解らない状況が続いてきました。

会の活動状況についての情報共有をなんとか実現したいと4～5年前から意識してきましたが日常の活動に追われ今日に至ってしまいました。

それが、今回伊藤編集委員を中心になんとか会報を発行しようと立ち上がっていただき、創刊号の発行にいたりました。

現在のところ、なんとか年4回の発行を実現しながら、より良いものに仕上げていくと言うことで、皆で力を合わせて頑張っていきたいと思っております。

今回の東日本大震災では、子供の頃からの自然体験活動の必要性、重要性を再認識させられました。

私達の活動が、震災復興支援に役立ち、多くの人達の心豊かな生活のために少しでも役立つことができればと思っております。

会員各位の力で、皆に親しまれる会報に育っていくことを期待したいと思います。



「湯ノ岳森の工房」で自然観察指導員養成講座の研修風景



森の学校フィールド入口にて

I.市民の森づくり事業

(1) 森林整備

桑原敏和

森林整備の定例実施日は、毎週水曜日及び第1, 3土曜日です。

作業時間は、午前9時から12時までです。

平成23年度(2011年度)の活動状況は、

広葉樹の間伐及びその利用を主に実施しました。

全体内容は以下のとおりです。

① 湯の岳エリア

- 1).炭焼き・ストーブ用薪割(2011年度用)
- 2).炭焼・炭窯管理
- 3).広葉樹林下草刈り及び山荘広場、駐車場等草刈り
- 4).広葉樹間伐、搬出(2012年度用)
- 5).針葉樹(赤松)の間伐搬出、及びその利用供与
- 6).観察コースの枯木、倒木、階段整備
- 7).山荘飲料水タンク周囲伐木及び付近排水溝整備

② 21世紀の森エリア

- 1).遊歩道及び育樹地の下草刈り(四季の森)
- 2).山火事跡地の地ごしらえ及び植樹

③ 岩出エリア

- 1).広葉樹の間伐及び木育材料搬出

④ その他

- 1).NPOトチギ環境未来基地への森林整備協力(湯の岳エリア観察コース補修他)
- 2).グリーンフォレスターいわき支部への協力(筑波大学森林調査、プロ野球の森)
- 3).放射線測定用樹木の細断サンプル取得
- 4).山荘広場の炊事場への電柱電線敷設工事協力

○森林整備に興味のある会員は、定例整備日に湯ノ岳山荘に集合ください。(その他地区は、集合場所を指定します)

○安全作業を最優先に実施しますので、機械作業(チェーンソー、刈払機)は、安全衛生教育終了者としております。



森林整備(玉切作業)

(2) 安全に楽しく森づくりをして行くために

佐藤 行年

林業とは何でしょうか。山に木の苗を植え、下草を刈、枝きり、徐伐・間伐、切り出し、製材の一連の流れの繰り返しです。

当会にあってはそこまですることはありません 楽しく森林づくりをする事にあります。

熱心に汗をかいている人もいます 中には玄人はだした人もいます、また、端で見ていて怪我をしないかハラハラする人もいます。

森に楽しく接してもらうにはそれなりの道具の使い方、機械の使い方等々技術の修得、研修が必要です。

森づくりは自然が好きになること、樹木の種類、草花、実の生る木、山菜、鳥類、昆虫等々一つ一つ覚えて行くと森づくりが楽しくなると思います。

また、山に必要な道具や、機械類の扱いを身につけると整備したところが明るく実感として成果がわかります。つねに道具や機械を怖がらず使いこなし、森林整備ってこんなに楽しいのだと感じてくれたらいいと思います。



作業前ミーティング



観察歩道工事スナップ

(3)2011年度農作業班活動と今後の予定

太田 満

1. 2011年度（平成23年度）の活動報告

3月に発生した東日本大震災と、それに続く原発事故により大きな影響がありましたがほぼ予定通りの作業を行うことが出来ました。

無農薬、有機肥料による作物の栽培を行いました。

- 1) 冬期に、落ち葉堆肥・EMボカシ作りなどを行いました。(1～3月)
- 2) ビニールハウスの隣にテント倉庫を設置しました。(1月)
- 3) 畑の斜面の地割れ箇所を土木工事で補修作業をしました。(10～11月)
- 4) 一年を通して作物作りと収穫作業を行いました。(約20品目の野菜)なお、ブルーベリーは収穫しませんでした。
- 5) イノシシが畑に侵入して、さつまいも、カボチャ及び落花生が食べられてほぼ全滅してしまう被害がありました。(7～9月)
- 6) 外部団体から申込みのあった農作業体験教室は放射能の影響で中止になりました。(パルシステム福島、ろうきん中央)
- 7) 例年通り、ソバの栽培や田植え、稲刈りなどの作業を行いました。
- 8) 土壌の改良のため、畑に落ち葉堆肥やもみ殻の投入を行いました。

2. 2012年度（平成24年度）の予定

昨年大きな被害があったイノシシ防御対策として、畑をトタン塀で囲うことから始めたい。

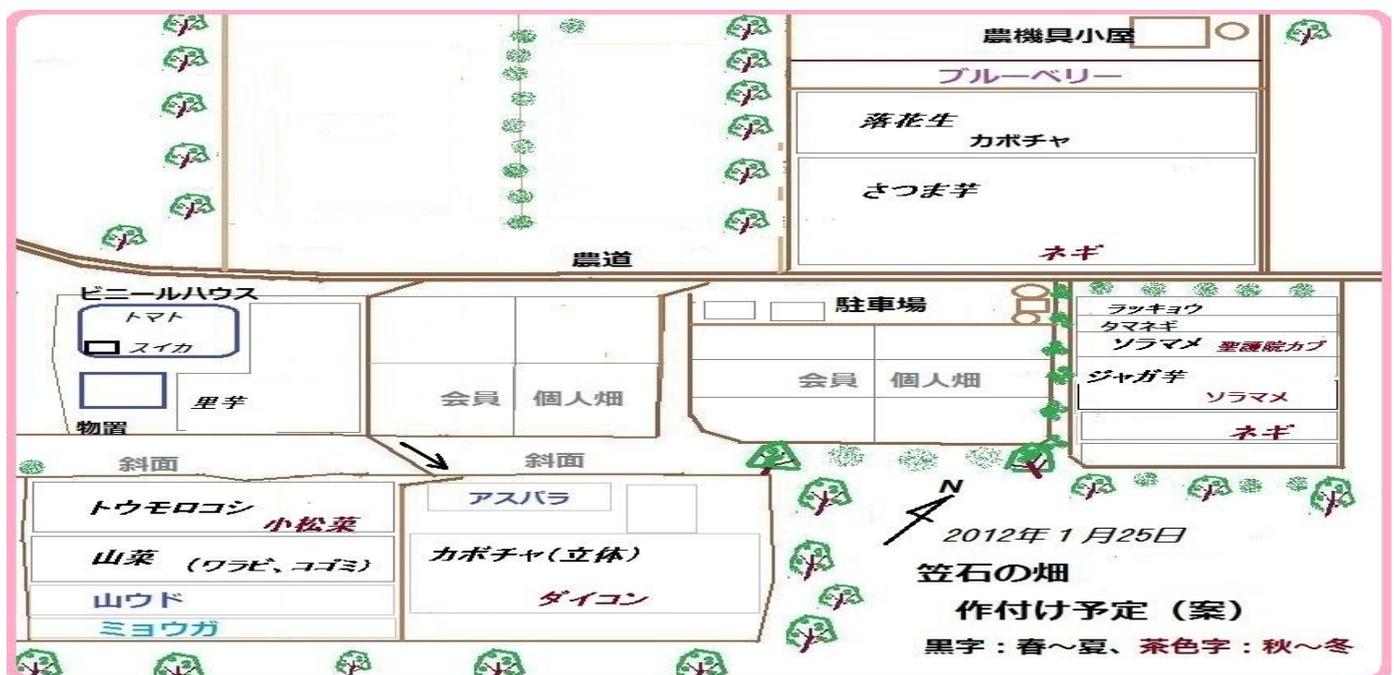
- 1) 作物の栽培は昨年と同様、約20品目を作る予定です。
- 2) 大雨で水たまりが出来ぬように畑の排水改善工事を4月に行う予定。
- 3) 班の初心者向けに、農作業の体験教室を行います。
- 4) 秋に芋煮会を行います。
- 5) 冬に味噌作りを予定。

5月上旬にイノシシ防御対策が完成しました



緊急を有するイノシシ防御対策は、トタン材を活用、平成24年度作付予定のさつまいも・カボチャ・落花生箇所周囲に高さ約1m長さ72mの塀を設置。さつまいもを植え付けました。

2012年度（平成24年度）笠石畑での作付け予定(案)



(4)キノコ栽培

佐藤幸二 ・ 荒川周一

○平成 17 年度より湯ノ岳山荘周辺の里山を整備しシイタケ、クリタケ等の原木栽培をして来ましたが、収穫量が少ないのが悩みでした。

そこで、栽培の参考書を手本に作業。そして、専門家のアドバイスを受けた結果、問題点は栽培場所の環境や散水等の管理が重要あることが解りました。

○平成 22 年度より、栽培担当者を決め管理・収穫・会員への販売等まで担当しました。

栽培したのは、露地栽培は原木シイタケ、クリタケ。ハウス栽培は原木ナメコ、ヒラタケ。そして、菌床にはマイタケ、ハタケシメジ、ナメコ、ヒラタケ等です。

担当者のきめ細かい管理により、以前から比べて発生量が多くなりました。

○平成 23 年度の露地栽培の原木シイタケは、放射線量の問題で消費は控えました。

ハウス栽培のキノコ類は放射線量に問題無く会員に格安で販売。

また、会の行事時にキノコ汁は大変好評でした。

○平成 24 年度の栽培計画について。放射線量の問題により露地の原木栽培を休止、ハウス栽培のみ実施します。

栽培キノコ種は、菌床マイタケ・ハタケシメとナメコを栽培する予定です。

○これまでのキノコ栽培で学んだ点について。

先ず、シイタケ以外はキノコの成長が早く、毎日の収穫と管理が欠かせない事。そして、キノコのゴミの除去の労力が大きく苦勞のひとつです。

しかし、豊作で大量に収穫出来た時の喜びは苦勞を忘れさせてくれます。

収穫時は人手不足で多くの方々の支援を必要です、キノコの好きな方・興味のある方は是非参加し収穫の喜びを味わって下さい。お待ちしております。

(会員への販売は、次年度の栽培菌代としました)



ハタケシメジ

II.森との付き合い方の勉強

プログラム開発

(1)環境教育支援活動

野口 紘

環境教育とは「気づき」「理解」「行動」と3段階に整理され、小学校総合学習等の支援活動に求められる事が多く「気づき」の段階では、頭での理解や科学的な判断を越えて人々の心の中に眠る、自然への愛情や畏敬の念を体験活動の中から呼び起こし 自然をもっと理解したいと思う意欲や、どの様に自然の中で行動すべきかを考える基盤になると思われます。活動を展開するにあたっては

①森林環境学習や自然体験活動に付いては学習(教科書や指導課題)に沿う内容とし担当教師とお互いに納得を得るまで協議を重ね、お互い納得確認のうえに依頼を受けます。「但し教師への学習支援の立場は確実に守る事」

②プログラム起案・実施に際しては テーマの確立・安全対策・アクティビティの内容は各班同一として、参加児童に違和感を持たせない様各班の担当者は相互の協議打合せを積極的に図る。

以上の点にメンバー全員が十分に留意しながら活動をしており、今後も引き続き続けていきたい。

○平成 23 年度小学校総合学習支援活動

自然体験活動実施校名・実施延回数と延児童人数

(1) 田人第2小学校・7回・69名。

(2) 江名小学校・・・9回・267名。

(3) 上遠野小学校・・・4回・129名。

(4) 錦東小学校・・・3回・85名。

○幼稚園自然体験活動・木育活動

・藤原幼稚園・・・1回・32名。

・湯本第一幼稚園・1回・20名。

今年1学期も依頼の6校・総合学習支援活動を続けて行きたいと思えます。



自然観察(江名小学校)

(2)木育教育関係

桑原敏和

木育教育指導者のスキルアップ研修会。

1) 木育教育指導者養成研修

- ・実施：平成 23 年 8 月 6 日（土）～ 7 日（日）
- ・会場：湯ノ岳森の工
- ・講師：埼玉大学 浅田茂裕先生他学生
- ・受講者：延 28 名
- ・研修内容

座学：木育インストラクター・テキスト

実技：カンナの扱い・行灯・カスタネット等



作品:(上)カスタネット・ストラップ・行灯。(下)スプーン・フォーク



2) グリーンウッドワーク研修

- ・実施：平成 24 年 3 月 24 日（土）～ 25 日（日）
- ・会場：湯ノ岳森の工房
- ・講師：グリーンウッドワーク協会 小野理事長他
- ・受講者：延 20 名
- ・実技：生木を足踏みロクロによる皿等の器の製作した。



足踏みロクロの作業スナップ



ロクロ作品:木製器類

(3)プログラム研修会グループ活動

野口 紘

毎週木曜日 9:00～12:00 がプログラム研修日となっております。

主な活動は

- 1) 山荘フィールド内のインタープリテーションのための勉強会。
- 2) 学校等自然体験や環境教育支援の目的に沿った勉強会。(下見とコースに合ったプログラムの勉強会)

具体的な内容は

- ・山荘フィールド観察コースマップ作成・修正。
- ・活動状況写真集及び自然体験学習ニュースの作成と山荘掲示板へ掲示。
- ・勉強会には、プログラムフォーマットを活用し、テーマやコース・対象者によって観察地点のポイント等の情報を共有している。
- ・定例活動メンバーは 13 名それぞれ環境教育・学校林整備・総合学習支援・紙芝居・クラフト・石釜料理体験・樹木ウォッチング等担当テーマを持って活動している。
- ・研修会の目的は「研修会活動は、楽しく・安全に・無理をしないで、感動を共有することを原則とする」興味のある会員は研修日に湯ノ岳山荘にご集合下さい。

III.自然案内人の育成ならびに

インタープリテーション

(1)第451回 NACS-J 自然観察指導員講習会・福島

共催・いわきの森に親しむ会 野口紘

各小中学校より総合学習の中で「森・川・海の仕組みと環境・自然と暮らし」等のテーマを中心に体験型の環境教育学習（自然観察）支援活動が「いわきの森に親しむ会＝以後 当会」へ求められる事が多くなりました。

現在はプログラム・メンバーが中心となり支援活動を行っており 当会会員相互のスキルアップ講座を計画していた所 当会では永い間 スキルアップ講座でお世話になっております (財) 日本自

自然保護協会主催 第451回NACS-J自然観察指導員講習会・福島を今年3月9日～3月11日に共催 開講する事が出来ました。

講習会は1978年に始まり今年7月で35年を迎える「気づき・理解・行動」の指導を継続している伝統的な講座で有り、NPO単体で共催出来る事は初めての企画で有ると聞いております。

又、東日本大震災の1年後 同時刻に受講者を含む関係者60名は当会理事長の発声にて 黙祷を奉げ多くの被害者のご冥福を祈り 復興への力強い誓いが出来ました事は関係者一同心に刻む講習会に成った事と思われれます。

講習会に北は青森県から南は三重県まで 県外14名・県内(いわき市内含む)17名・当会会員13名又年齢層も10～20代11名 30～40代10名 50～60代19名 70代4名と若い人達と人生経験豊かな受講生44名が一堂に会し講義の合間 合間に各々熱い思いの意見交換を重ね 講義の{気づき・理解・行動}に改めて 必要性を感じ 今日から改めてのスタートラインという気持で盛会の中に開催出来ました。

協力頂きました関係者に対し心から厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。



植物の光合成について(吉田先生)

IV.ろうきん森の学校

(1) 森の学校の概要と経緯

労働金庫連合会(労金連)は創立50周年を期した記念活動として、豊かな森の再生・環境問題に取り組む人材育成を柱とした「ろうきん森の学校」を2005年10月に開校しました。

「ろうきん森の学校」は、日本の里山再生をテーマに、労金連が活動資金を支援し、NPO 法人ホールアース研究所を主管団体として実施する、森林環境教育事業です。

活動の柱として

③ 森を育む(植樹、間伐・下刈り等の森林整備活動)

① 人を育む(森づくりや環境教育リーダーの育成)
② 森で遊ぶ(里山を活用した自然体験・環境教育)
の3つがあり、2005年度より10年間にわたって富士山、福島、広島の全国3地区で現地のNPOを軸に、地域の皆さんと共に展開しています。

前半5年間では、様々な活動を行う基盤となる施設(作業場・トイレ等)や遊歩道の整備を中心に行い、2010年度までには3地区とも宿泊を伴う活動ができる施設が整いました。

また、フィールドの整備と並行して地域と連携したプログラムも行ってきました。田貫湖秋まつり(富士地区)、小学校の環境教育支援(福島地区)、森の学校フェスティバル(広島地区)など、地域の方の理解と協力・支援をいただきながら活動を進めています。

現地NPOがそれぞれの特色を活かしながら、将来は各地区で自立した運営ができるよう、地域と連携した活動の模索を行っています。

(いわき地区の「森の学校開校式」は2005年(平成17年)10月28日蔓植物のテープカットで開校しました)

(2) ろうきん森の学校復興支援イベント

震災復興支援とろうきん森の学校事業を多くの方々に知ってもらう目的で、平成24年5月19日(土) ろうきん森の学校3地区(富士・福島・広島)主催による復興イベントが、21世紀の森公園・コミュニティ広場で開催されました。

放射線量の問題がありましたが、参加者124名。内訳は、大越連合事務局長他労協加盟団体より家族をふくめて70名、労金連9名、磐崎森クラブ25名、その他一般参加者20名でした。

会場は67名で対応しました。内訳は、3地区スタッフとして広島より1名、静岡3名。労金連6名、福協15名、トチギ環境未来基地5名、明星大4名、公園管理より1名と当会員32名が主になり各種体験活動の準備運営に当たりました。

各種体験活動種目は、ネイチャーゲーム、スタードーム作り、間伐材玉切り体験、ネイチャークラフト(大人用・ブックスタンド)(子供にはリューシルフオン)冒険ゾーンの自然観察会。昼食には富士の宮焼きそば・おにぎり・トン汁が振舞われ参加者スタッフ共楽しい一日を過ごしました。イベント参加者総計は191名でした。

当日は、五月晴れの好天にも恵まれ体験活動を通して、一時でも震災や放射能を忘れさせ心身のフレッシュとなれたものと思っております。

イベント写真集



開会式(快晴爽やかな日だった)



ネイチャーゲームで楽しむ参加者



大鋸を使い兄弟協力で丸太切りに挑戦



大鋸で親子協力で丸太切りを楽しんだ



木工クラフト(リユースシルフォーン作り)。



スタードーム作り体験



爽やかな天候に恵まれ、昼飯は楽しいひと時でした。
富士の宮焼きそば・トン汁は大人気でした。

○クラフト材の放射線量の不安を除くため、新潟県で調達してきました。子供達の安全安心に努めました。

○スタードーム作り体験はスタッフが楽しんだようだ。

- 材料(竹)の調達から加工まで思ったより多くの労力を要した。
- 体験作業時の怪我の防止に竹の加工には細心の注意を払った。(めんとり・カンナまでかけた)

○冒険ゾーンの自然観察会には、放射線量の問題もあり、参加については積極的に勧めず、希望する大人のみとした。

- 今盛りの新緑を十分楽しみました。

ろうきん森の学校復興支援イベント記念写真



閉会後の記念写真

(横断幕はトチギ環境未来基地作)

V.その他

(1)湯ノ岳山荘の管理と運営について

池野上幸弘

当会は指定管理者としていわき市より湯ノ岳山荘の管理運営を任されています。

山荘の運営内容を簡単にご報告します。

平成 23 年度は大震災の影響で通常の年と大きな違いがありました。23 年度の山荘利用者数は 2,949 名でした。(山荘宿泊者：1,315 名、・広場利用者：284 名、研修室利用者：1,350)

平成 22 年度は 3,495 名(山荘宿泊者：846 名、広場利用者：977、研修室利用者：1,672 名)でしたので前年比約 16%減です。

放射能被害を気にする人達が、いわきへの旅行を辞めたり、広場でのバーベキュー等の屋外活動を中止したりしたことが原因と思われます。

しかし僅か 16%減ですんだのには訳があります。通常の年ですと、スパリゾートハワイアンに来る方々の内、安い宿泊場として当館を利用する家族連れが多いのですが、大震災でスパリゾートハワイアンが修復工事のため営業休止となり訪れる人は皆無となりました。

反面、原発事故の対応として、中央から大手企業の関連会社の多くの人達が当地に派遣され湯本温泉街の宿の多くはその人たちの指定宿となりました。

一方、災害ボランティアとしていわきで活動したい人達は宿泊したくても宿は原発関連の企業で占有されていて、泊まる場所がないという状態でしたので、湯ノ岳山荘に宿泊施設があることを知った人達の宿として利用されました。

災害ボランティアの組織として遠方よりいわきに来られた方々の内、富士宮、鹿児島、岡山等からの方は継続して当館を拠点にして活動していました。

災害ボランティアの宿泊施設として、また彼らに対する情報発信源として目に見えない裏方の役目を果たしました。

また、23 年度は日本自然保護協会の講習会場となるなど、多くの人材育成の会場として場所を提供してきました。山荘利用者はこれからも多方面にわたり活躍していくことと思います。

(2)森林関係団体

1).福島県もりの案内人の会いわき支部

菅野貞夫

もりの案内人の会いわき支部の全会員数は 41 で、25 名がいわきの森に親しむ会の会員です。

平成 23 年度の活動は、平成 23 年 3 月 11 日発生した東日本大震災と東京電力福島第一発電所事故による津波・放射線汚染等の影響で、いわき支部・相双支部はもりの案内人の諸活動が中止しました。年会費も免除となりました。

4 月 15 日に支部総会が開催され、役員が改選され当会員より選出されました。

支部長 佐々木志津男さん

副支部長 草野 秀雄さん

会計、事務局、会計監査は留任です。

平成 24 年度活動計画については、放射線量等の問題があり 5 月に開催された福島県の総会で、今年度の活動は昨年度に引き続き休止となりました。

本部会費も免除となりました。

2).ふくしま・グリーンフォレスターの会いわき支部

支部長 佐藤行年

福島県では、森林整備など森づくり活動を通して県民に森林の重要性や大切さを伝えるボランティアによる指導者として「福島県グリーンフォレスター」を認定しました。

「ふくしま・グリーンフォレスターの会」は森づくりの活動や研修会・情報交換そして会員の親睦を図るため本会に賛同された「福島県グリーンフォレスター」認定者により平成19年4月24日が結成されました。

いわき支部は、平成20年1月26日にきわき市に在住しているグリーンフォレスターで結成しました。

いわき支部会員は19名で、15名がいわきの森に親しむ会々員となっております。

会員は、いわきの森に親しむ会での森林整備活動や間伐体験者等の指導員として活動しております。

また、チェーンソー・刈払機作業安全衛生教育の指導補助員としても活動しております。

会では、安全な森林整備作業を目的に会独自の研修会を定期的開催し技術技能の向上に努めております。

○平成23年度の研修会の実施結果について。

H23.06.21 (火) 刈払機の点検整備

H23.07.19 (火) チェーンソーの点検整備

H23.10.18 (火) 赤松の間伐作業

H23.11.22 (火) 刈払機点検整備・実技

H24.01.24 (火) ロープワーク研修

H24.02.21 (火) 安全衛生について

平成24年度の活動について前年度に引き続き安全と技術の向上を目指す活動を計画します。

なお、会員以外の方々の参加大歓迎です。



研修会(刈払機点検整備)

3).うつくしま21森林づくりネットワーク

「うつくしま21森林づくりネットワーク」は福島県内の森林ボランティア15団体でつくられています。

当会も加入しており松崎理事長は副会長にありま

す。毎年「森林づくり活動発表交流会」が開催されます。平成23年度は、11月12日(土)須賀川市「響き

の森」で開催されました。

当会から、テーマ「市民参加の森づくり推進」について松崎理事長が発表しました。

○「市民参加の森づくり推進事業」発表要旨について。

- ① 間伐の実施
- ② 間伐材の利用
- ③ 木育教育指導者養成のための研修会
- ④ ネットワーク組織作り
- ⑤ 東日本大震災関連の活動

詳細は実施報告書(山荘書籍棚にあり)をご覧ください。

(3)その他

① 軽自動車

金子喜弘

平成23年12月会所有軽トラが配車されました。車種は三菱ミニキャブ、車両番号「いわき480え14-72」、貨物キャブオーバです。

保管場所は湯ノ岳山荘です。運転者は使用前点検・終業点検を励行安全運転に努めて下さい。

また、運行簿へ決められた事項を記載してください。トラブルがあれば速やかに報告願います。大事に可愛がって下さい。



軽トラ

② 湯ノ岳森の工房と工作機械について

管理責任担当(桑原、佐藤(行)、小泉)

森づくりやクラフトなど体験活動拠点としての、湯ノ岳「森の工房」が充実しました。

これまで整備された主な工作機械は、電源単相100V用として自動カンナ、14型電子バンドソー、卓上糸ノコ盤等があります。

今回設置された工作機械は電源3相200V1.5Kw.16型バンドソーです。

その他、森林整備等に活用機械としてエンジン付き油圧薪割機、残幹粉碎機(チップパー)、ロゴソール等が配備されてい

ました。いずれも作業の省力機械として便利なものですが、決められた取扱いを誤ると重大な事故の原因となります。

したがって、取扱い責任者の指導を受け活用して下さい。

また、森林整備主力機械としてチェーンソーと刈払機については使用者を選任されておりますので責任を持って運用管理してください。

○管理責任担当者

- ・ 四阿・工房管理：-----○桑原、小泉。
 - ・ 電動工具（100V用）：○桑原、小泉、佐藤（行）
 - ・ チェーンソー、刈払機：○佐藤（行）
 - ・ 200Vバンドソー：----○佐藤（行）
- （注）：機械・工具は使用前・使用後の点検は念密お願いします。



電源3相 200V1.5Kw.16 型バンドソー

・ 主な電動工具について

卓上糸鋸盤、電動ロクロ、電気ドリル、電動ノコ、電動ドリル、電動カンナ、自動カンナ、電動小型溝切、14 型電子バンドソー、



- 2010(H22)03.02 着工(基礎工事)
- 2010(H22)03.14 上棟式
- 2010(H22)06.04 工事完了
- 2010(H22)06.05 竣工式
- 2011(H23)01.28 四阿名称決定
- 2011(H23)03.01 看板取り付け
- ・看板は木田悟郎様作
- ・豊田林業(有)様には建築には大変お世話になりました。

・ 大型機械保管場所が完成



平成 23 年度に、森の工房南側に油圧薪割機・ロゴソール・チップ一等大型機械収納場所が完成しました。（設計施工佐藤行年）。

③ EM培養装置「百倍利器」の貸与について

菅野貞夫

EMとは、有用微生物群ですべて安全で有用な微生物を 80 余种共生させた液状の微生物資材です。

このEMの活用とは、土中や水中の微生物相を生き物にとって好ましい状態へと、環境そのものを変える事を意味し、一次産業では安全・健康のおいしい食物を作るという成果を上げています。

さらに、微生物の持つ抗酸化の力を活用した技術として、工業・医療・建築・エネルギーなど様々な分野から注目を集めているのです。

また、EM菌には、**除染効果**が認められるとの事で、昨年EMメンバーが来荘された祭、広場（約 0.6 h a）にEMを散布と溜池（約 0.1 h a）EMダンゴ約 1,000 個投入されました。

EM 培養装置「百倍利器」の貸与を受けてからの活動は、2 回の製造、除染等に活用しております。

- ・ 1 回分は、会で利用している畑（約 500 坪）へ散布。
- ・ 2 回分は、広場と溜池への散布、その他湯ノ岳山荘周辺へ散布しました。
- ・ その他、山荘のトイレ、風呂、台所などへ使用を適宜実施しております。
- ・ 今冬季は例年になく寒かったこともあり、野外への散布は行っていない。
- ・ 3 月にはいってから 3 回目の製造を行った。今回は、EM1 と EM3 の両方を入れたものとした。（貸与を受けた動力噴霧器が使用可能になれば散布を開始したい）

今後の活動予定。

- ・ 湯ノ岳山荘周辺の里山観察コース（3 コース合せて 1,500m）の放射線量を昨年 12 月 18 日に測定結果は 0.2~0.3 μ Svが大半でした。但し杉林の近傍は 0.3~0.4 μ Svと高かった。
- ・ 今年 1 月からボランティアの方々の協力を得て観察コースの落葉除去作業を実施中です。この作業と併行しながら動力噴霧器によるEM散布を 4 月に降実施する予定。作業終了後、放射線量の測定も予定しています。



EM培養装置「百倍利器」



向かって左が「大」の「平治窯」、右が「小」



平治窯看板(木田悟郎様作)

④放射線量測定値が確認出来ます

平成 24 年 3 月、湯ノ岳山荘広場に文部科学省のモニタリングポストが設置されました。放射線量を即確認できます。

また、文科省ホームページではいわき林業研修センターでリアルタイムの測定結果が確認できます。

観察会・屋外活動時等に放射線量を確認できますので参考にして下さい。(伊藤)



放射線量モニタリングポスト

⑤ 炭窯・石釜・燻製釜紹介

a. 「炭窯」

福島県いわき農林事務所の方々と福島県林業普及指導員の草野平治氏の指導を受けて大・小の炭窯それぞれ一基ずつ設置しました。

広葉樹林の間伐や森林整備材を活用し炭焼きを楽しんでおります。

窯の名称は指導員の氏名を記念して、「平治窯」と命名しました。看板は、木田悟郎様作です。

○大「平治窯」について

福島県いわき農林事務所・福島県林業普及指導員の草野平治様の指導を受け、平成 16 年 (2004 年) 6 月 30 日着工、草野平治様に炭焼きの指導ポイント等の指導を受け 7 月 5 日に火入れ炭窯を作り上げた。その後 20 回程炭焼きを実施、しましたが、窯大・小共満足の行く焼き上がりには程遠く難しいです。

○小「平治窯」

着工：平成 17 年 (2005 年) 12 月 14 日

火入れ：平成 17 年 (2005 年) 12 月 18 日

(窯を作り上げた)

○炭焼きの時間は材の種類で長短はあります。

大：5 泊 6 日～6 泊 7 日

小：4 泊 5 日～5 泊 6 日

炭焼き体験等に、この時間を参考にしてください。

b. 「石釜」

平成 17 年 (2005 年) 6 月ハヤマ林業様のご協力を受けて、耐火煉瓦で釜を積上げた。平成 17 年 6 月 15 日・土台の石積、6 月 22 日煉瓦の上へ金網を取り付け・釜の壁を厚く改良、7 月 7 日・煙突を取り付け、7 月 13 日・屋根が出来上がり、7 月 27 日・ピザを焼き試食、その旨さに驚き現在に至っております。

釜は、私達に焼き料理の旨さ、食べる楽しみを与えてくれました。但し、焼き料理の決めてとなる遠赤外線を高めるためには、釜の加熱に約 2 時間必要であります。

これまでの焼料理は、ピザをはじめ主な食材はサツマ芋、玉葱、ニンジン、ジャガイモ、サトイモ、筍、パン、マグロの兜焼き等や何でも美味しく。焼き料理体験活動 (食育) には最高の設備と思います。



石釜

- 炭窯・石釜等の小屋作りについて佐藤(行)さん。石釜の改良、燻製釜設置、木酢採取は小泉さん。と二人の力が非常に大きいものでした。

C.[燻製釜]

平成 18 年 (2006 年) 秋に設置されました。
温燻釜です。

釜の特徴は、大型及び数多くの食材の燻製が可能であります。チップは広葉樹の間伐材ヤマザクラを用意してあります。熱源は練炭を使用します。

練炭も在庫有り。時間は 4~6 時間です。
食材によっては燻製にコツがあり前もって池野上までご連絡下さい。



燻製釜

編集委員よりお願い

会報原稿を募集します。多数の応募を期待しております。

次回発行予定は 7 月 20 日です。締め切りは 7 月 7 日 (土) とします。

原稿は山荘事務所へ提出願います。また、山荘 PC に投稿できます。(Microsoft word でお願いします)

会報名称「ヤマザクラ」の図案ですが、まだまだ納得のいかない図案です。これを、より良いものに発展させたいと思っております。

会報タイトルの図案についても募集いたしますのでご応募ください。

編集後記

平成 23 年 2 月 22 日、21 世紀の森山火事跡地へ植樹したオオヤマザクラに初めての二輪開花を確認しました。嬉しくなりました。

記念すべき開花の年に、会報を発刊することになり、名称も「ヤマザクラ」になりました。

これまで会の情報発信は、定期的に会員への連絡・当月の予定表と「ホームページ」そして「ろうきん森の学校だより」があります。

情報発信内容は、予定(計画)が主力で実施内容と業務担当者からの情報は多いとは言えませんでした。

また、次の計画に反映させる活動記録が充分とは言えませんでした。これは、私自身の反省点でもありました。

今回、各業務担当者の方々の協力を得て創刊号としてまとめる事が出来ました。感謝申し上げます。

ただ、会報の発行は初めての経験であり、文章作成とパソコン操作に多くの時間が必要となり、当初計画発行日 4 月 20 日を守れず 1 ヶ月以上遅れとなってしまいました。

今後、会報の発行は年度 4 回発行を計画、次回は 7/20、10/20、1/20 で進めたいと思っております。

これも、会員の方々の協力がなければ出来ません。皆様よりの数多くの原稿をお待ちしております。

次回より内容を充実させ少しでも成長した会報にしたいと思っておりますご協力お願い致します。

(伊藤)

お知らせ

第 8 回通常総会案内

一・開催日時
平成三年八月一七日(日)
午後一時~
二・会場
湯ノ岳山荘 研修室

右の通り総会を開催致します
多くの方々のご出席をお待ち
しております。

(発行) NPO 法人いわきの森に親しむ会
(発行責任者) 松崎和敬(編集担当者) 伊藤貞夫
(事務局) 〒972-8326 いわき市常磐藤原町湯ノ岳 2
湯ノ岳山荘内

TEL/FAX 0246-44-3273
E-mail: yunodake@gray.plala.or.jp
HP: <http://www16.plala.or.jp/goan/>